

## 第18章 浄禅寺跡遺跡の調査

### I 遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高12~14mで現谷底との比高差は2mを測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は1989年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2008年1月現在32地点で試掘調査及び発掘調査が行なわれ、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡1軒、中期住居跡1軒、中・近世の薬研状の堀や、遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壙墓157基、一字一石経約76,000点が出土している。旧苗間村の浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。

### II 浄禅寺跡遺跡第9地点

#### (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、土地所有者より2007年3月13日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置する。本地点は、1994年10月18日に農地改良(1m以上の盛土等)に伴う試掘調査を行ない、池跡とみられる黒色土堆積や土坑らしき範囲と、大量の焼土や炭化物を確認している場所のうち、北側の約半分にあたる。このため申請者と協議の結果、建物部分の地盤に基礎を補強するための杭を打ち込むことから建物部分の本調査を実施した。

本調査は2007年5月22日から24日まで行なった。試掘調査で確認されている溝部分について重機で表土除去後、人力による表面精査を行ない、溝を検出した。表土から縄文土器片、近世陶磁器等が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。



第47図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第35表 浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ( )は試掘調査	面積 (m <sup>2</sup> )	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1	苗間東久保579	1979.4.3~4.21	605	共同住宅	苗間東久保1地点として報告済み炉穴10、土坑14、縄文早期後半・中期	東部遺跡群 I
2	苗間東久保573	1982.4.1~4.3	396	共同住宅	苗間東久保7地点として報告済み遺構なし、磨耗縄文土器	東部遺跡群 III
3	苗間東久保581	1984.7.20~7.21	320	共同住宅	苗間東久保12地点を浄禅寺3地点とする遺構なし、縄文中期末	未報告
4	苗間神明後346-1	1989.11.15~11.25	150	開発予定地	炉穴10、土坑7、ピット14、縄文早期後半・前・中期	東部遺跡群 X
5	苗間374-9	1991.8.28~9.3	100	個人住宅	遺構なし、縄文前期・中期土器片	町内遺跡群 I
6	苗間358-1	1991.9.21~12.26	826	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群 I
7	苗間東久保573-4	1992.10.20~11.20	831	共同住宅	炉穴8、井戸3、堀3、縄文草〜中期	調査会報告5集
8	苗間357-1	(1994.9.20~9.27)	615	宅地分譲	落し穴、根切溝	町内遺跡群 IV
9	苗間353	(1994.10.18)、 2007.5.22~24	1,266	農地改良	土坑、溝、縄文土器、磁器	町内遺跡群 IV、市内4
10	苗間356-1	1994.10.31~11.2	999	宅地分譲	近世土壌墓、一石経埋納土坑、六道銭、江戸中後期	調査会報告12集
11	苗間352-1 他	(1995.1.9~2.3)	572	道路	湧水口	町内遺跡群 IV
12	苗間35-95	1995.9.25~10.21	140	個人住宅	屋外炉、遺物集中3、ピット16、溝5、縄文中期土器、磁器	町内遺跡群 V
13	苗間314-2	(1996.1.8~1.29)	101	個人住宅	土坑13、ピット11、井戸1、溝2、縄文早〜後期、陶磁器	町内遺跡群 V
14	苗間360-1,362-2	(1996.6.3~6.12) 1996.6.18~7.11	2,178	個人住宅	礫群3、落し穴1、溝4、ピット251、旧石器、縄文土器、陶磁器片	町内遺跡群 VI
15	苗間362-4・5	(1996.6.3~6.12) 1996.7.12~8.2	494	分譲住宅	炉穴7	町内遺跡群 VI
16	苗間579-1	1997.11.10~12.19	291	個人住宅	縄文住居1、炉穴14、ピット61、土坑16、溝4、縄文早期後半、前期、中期	町内遺跡群 VII
17	苗間345-2・10	(1998.9.29~10.2)	877	個人住宅	遺構なし、縄文早期後半、中期後半	町内遺跡群 VIII
18	苗間345-3・4	(1999.5.26~6.24) 1999.6.26~8.3	599	個人住宅	炉穴8、集石土坑3、土坑13、ピット27、溝縄文後期土器、土師器	町内遺跡群 IX
19	苗間神明後345-4	1999.8~9	703	分譲住宅	炉穴1、集石2、焼土痕4、土坑22、井戸2、溝8、掘立5、縄文早〜晩期土器、石器、中近世陶磁器、板碑	調査会報告15集
20	苗間神明後351-1	(2001.10.26~10.29)	223	倉庫	遺構なし、近世磁器	町内遺跡群 X I
21	苗間東久保591-3,592-7	(2001.11.19~11.20)	182	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群 X I
22	苗間373-5・8, 377-5・3・4	(2002.4.23~5.14)	935	分譲住宅	土坑1、ピット4、溝、遺物なし	町内遺跡群 X II
23	苗間592-1	(2003.4.28)	100	個人住宅	ピット2、溝、遺物なし	町内遺跡群 X II
24	苗間神明後346-1・2の一部	(2004.8.30~8.31)	391	個人住宅	遺構なし、遺物なし	町内遺跡群 X II
25	苗間339-1・2	(2004.9.22~10.12)	721	共同住宅	ピット2	町内遺跡群 X II
26	苗間神明後354-2の一部	(2005.3.3~3.8) 2006.4.17~28,6.7~15	216	分譲住宅	炉穴10、土坑8、ピット21、溝1、縄文中期片	市内遺跡群3
27	苗間神明後354-2	(2005.12.1~2006.1.22) 2006.1.23~2.23	696	新設道路築造分譲住宅	住居跡1、炉穴15、埋壺2、土坑117、ピット127、溝1	市内遺跡群2
28	苗間字東久保719-7,720-1	(2007.1.23)	2,478	園舎改築工事	溝2	市内遺跡群3
29	苗間570-1・2, 571-1・2,575	(2007.8.7~9.21) 2007.9.25~11.6	4,920	分譲住宅	掘立柱建物跡3、井戸15、土坑15、堀跡1、溝17、陶磁器、板碑他	市内遺跡群4
30	苗間359-1	(2007.9.14~10.9) 2007.10.9~11.2	1,298	分譲住宅	茶毘跡5、木炭窯1、土坑15、溝2、陶磁器、板碑他	市内遺跡群4
31	苗間字神明後342-14一部	(2007.2.19)、 2007.2.19~3.5	171	個人住宅	住居跡1、炉穴1、土坑1、ピット26、縄文土器、石器	市内遺跡群4
32	苗間字神明後340-17, 342-10・15,	(2007.2.25~3.4)	188	個人住宅	堀跡1、ピット1、縄文土器	市内遺跡群4

## (2) 遺構と遺物

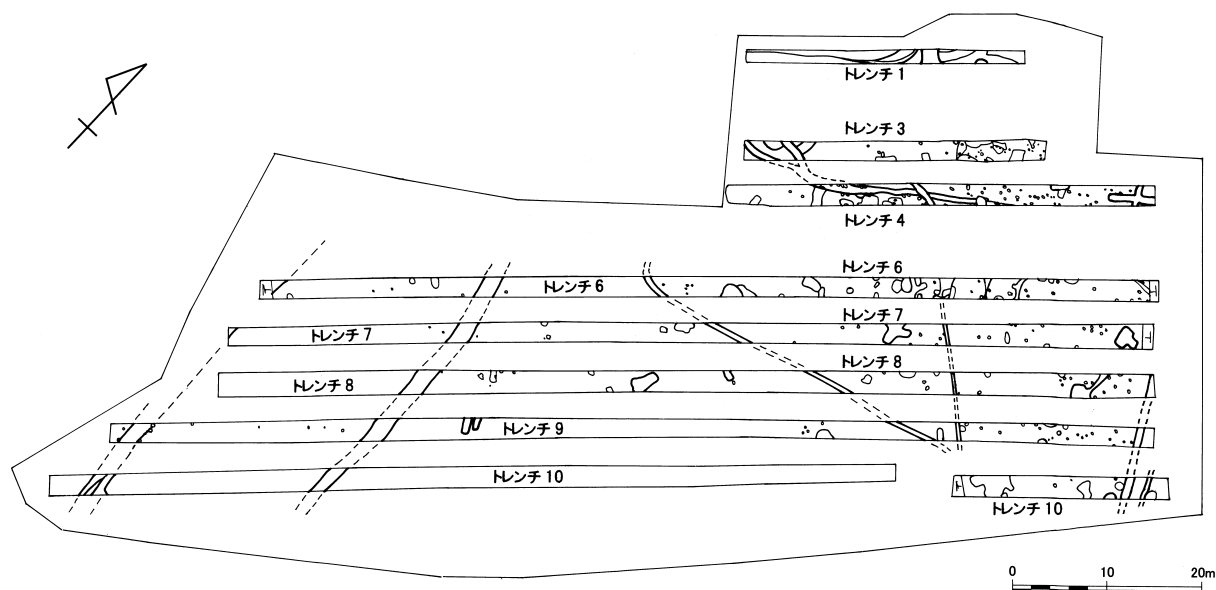
## ①溝

溝は東から西に傾斜する地形に沿って延びる。上幅74~94cm、下幅25~40cm深さは42.3cm、東端底と西端底の高低差は33.4cmを測る。

## ②出土遺物 (第48図)

1から18は全て溝の覆土層出土である。1は角押文と沈線を施し胎土に大量の金雲母を含む阿玉台式土器である。2は口縁部無文帯。3は沈線文とRL縄文、4は横位隆帯で胴部はLR縄文を施す。5・6は地文RL又はLR縄文に沈線の懸垂文間を磨消す。7は無節Lr縄文、8は単節RL縄文を施す。9は沈線文を施す。10・11は木口状工具による蛇行条線文を施す。

12は地文RL縄文に微隆帯と磨消しを施す。13は沈線文の間にLR縄文と磨消しを施す。2、7、8は勝坂式から加曾利E式。3~6・9~11は加曾利EII式。12、13は加曾利EIV式である。14は瀬戸・美濃系陶器の志野皿で全面に長石釉、口径・底径・高さは推定で10.2×5.1×2.3cm。15は肥前系磁器の皿が碗で、轆轤成形で内外面に染付けを施す。16は陶器の碗で、轆轤成形に外面に黒色の釉薬で施文。17は瀬戸・美濃系陶器の燈火受付皿で全面鉄釉し内外面上部に煤が付着、口径・底径・高さは推定で10.9×5×1.6cm。18は在地産の瓦質土器で内面回転撫で調整、外面スタレ状刻印文を施す。



第49図 浄禅寺跡遺跡第29地点遺構配置図 (1/800)

#### IV 浄禅寺跡遺跡第30地点

##### (1) 調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴う宅地造成で、原因者より2007年6月6日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置しているため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は2007年9月14日から10月9日まで行なった。幅2mのトレンチを7本設定し、重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。試掘調査の結果、中世の茶毘跡や木炭窯・土坑・ピット、縄文時代の落とし穴等の遺構を確認、陶磁器や縄文土器等が出土した。遺構確認面は地表面から約40～150cmの深さであるため、建設予定建物の基礎が遺跡に影響を及ぼす部分について、2007年10月9日から11月2日まで本調査を行なった。

本調査の結果、中世の茶毘跡5基・木炭窯1基、土坑15基・溝2本・ピット等、陶磁器・板碑片・石製品・縄文土器・石器等が出土した。

写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し調査を終了した。試掘調査と本調査の一部で検出した遺構については本章で報告し、本調査の成果は第II部第6章に掲載した。

##### (2) 遺構と遺物

###### ① 炉穴

炉穴はトレンチ5で1基検出し、縄文時代に属するとみられる。平面形態は不整形を呈し、規模は上端径55×55cm、下端径19×19cm、深さ12cm、焼土範囲は40×40cmで足場はない。

###### ② 落とし穴 (第36表)

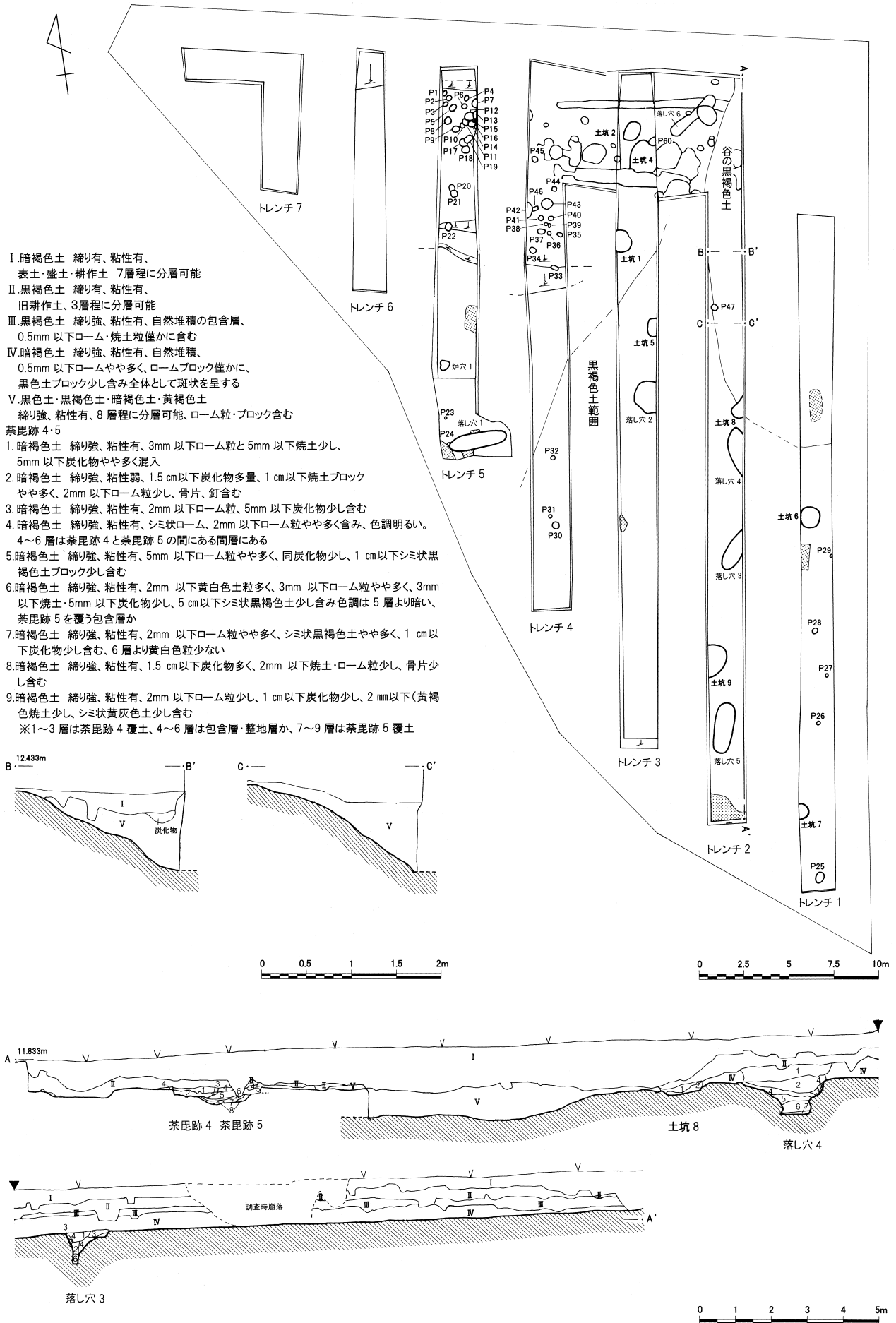
落とし穴は試掘調査と本調査合わせて6基検出した。調査区南側のやや高い位置に集中し、時期は縄文時代に属するとみられる。

###### ③ 土坑 (第37表)

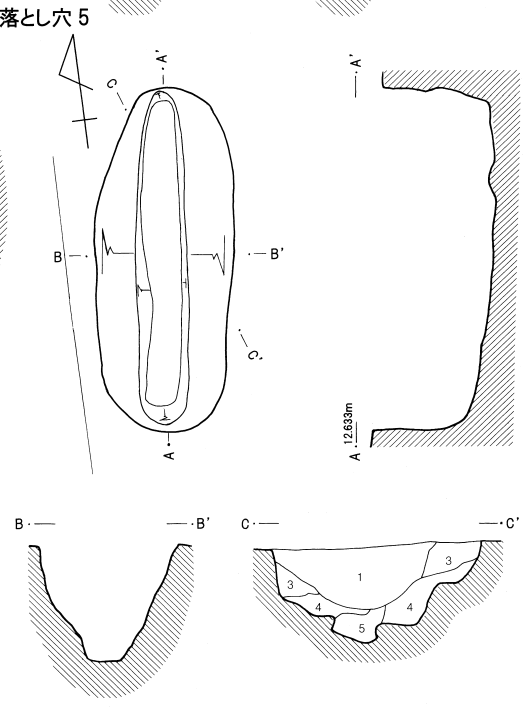
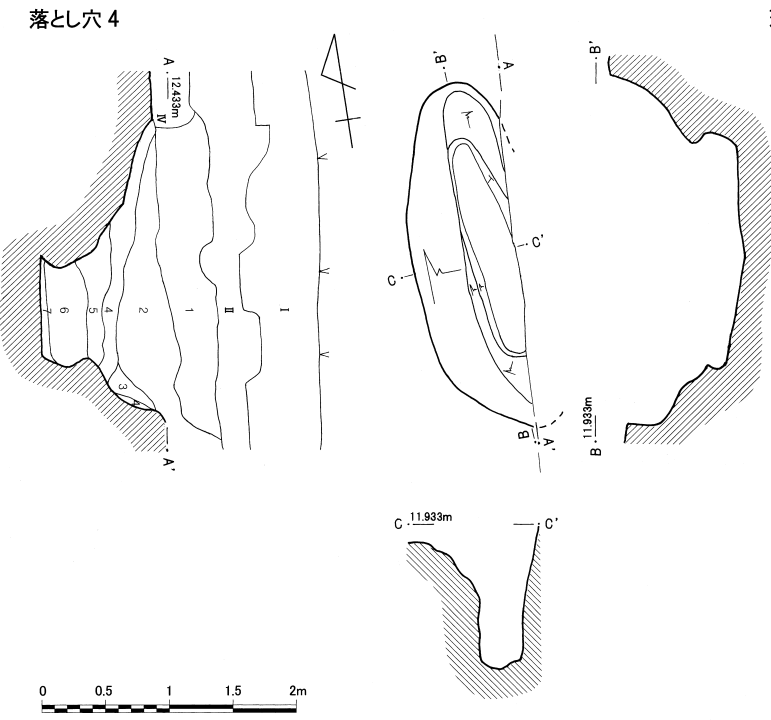
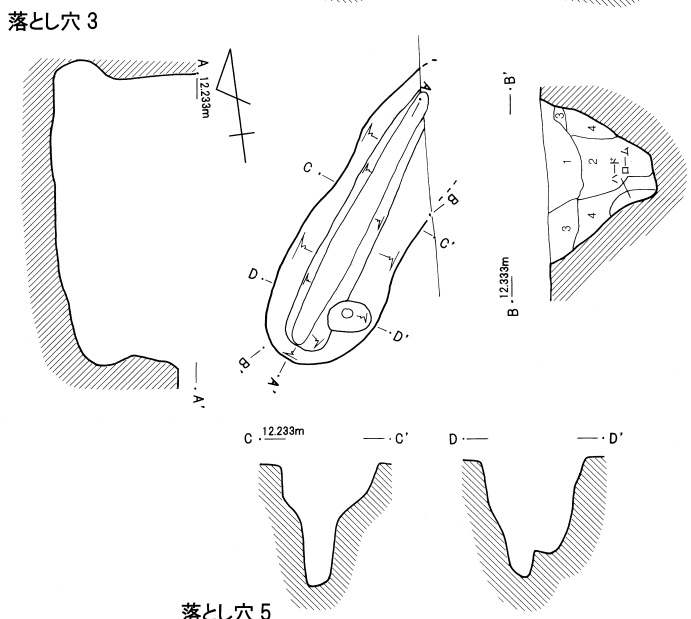
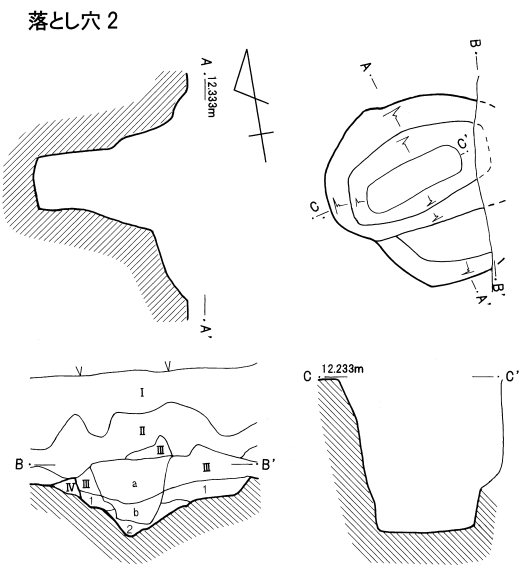
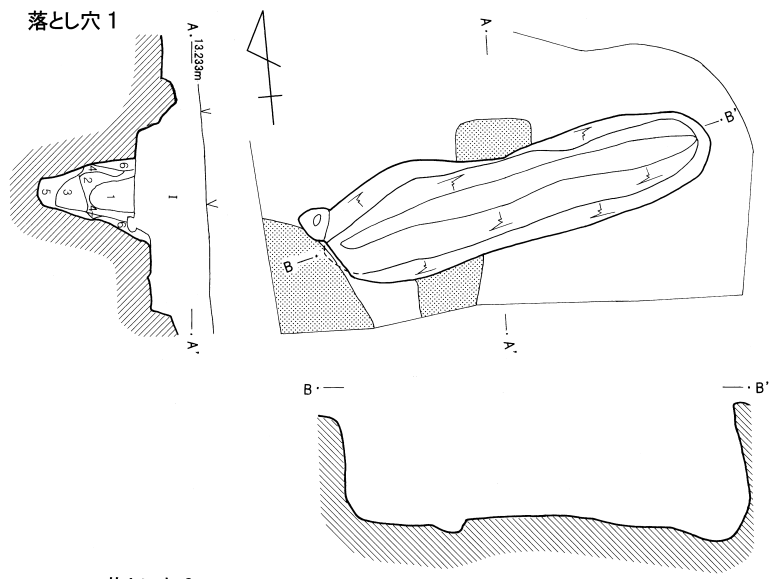
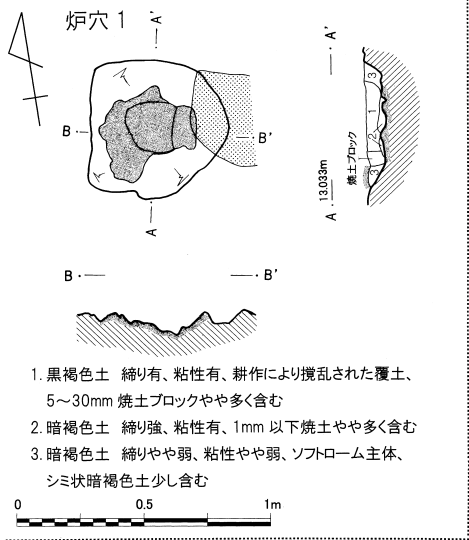
土坑は試掘調査と本調査合わせて16基検出した。土坑6はフラスコ型を呈し、土坑5・6・9は掘り込みも深く落とし穴の分布範囲と近い。縄文時代に属するとみられる土坑は調査区南側、中世以降の土坑は調査区北側に分布する。

###### ④ ピット (第38表)

ピットは61基検出し調査区北側に集中している。ピット21はピット底部付近に拳大の自然礫数点出土した。ピット26・28・43は縄文時代の可能性があるが、それ以外は全て中世以降のものと思われる。

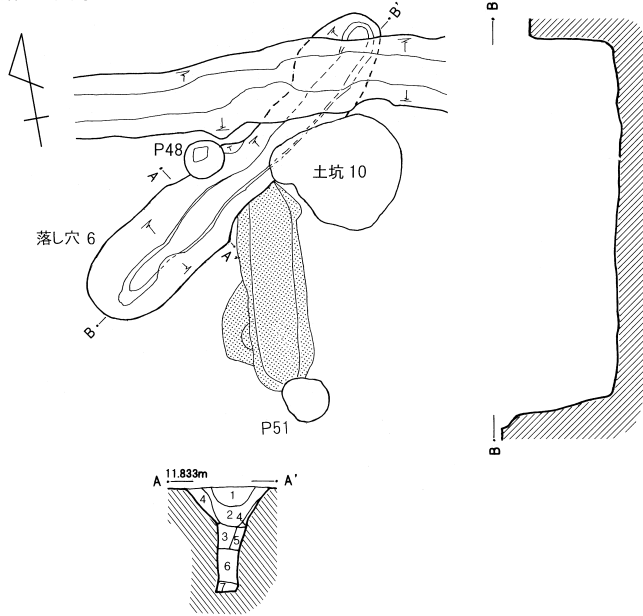


第50図 浄禅寺跡遺跡第30地点遺構配置図 (1/300)、土層図 (1/60・1/150)



第51図 浄禅寺跡遺跡第30地点炉穴 (1/30)、落とし穴 1~5 (1/60)

落とし穴 6



落とし穴 1

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、斑状ソフトロームブロック少し含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し含む
3. 黄褐色土 締り有、粘性有、2 層より締り強くソフトローム主体、5mm 以下ローム粒多く含む 5mm 黒色土点在
4. 黄褐色土 締り強、粘性有、2 層類似、ローム分更に多く色調明るい、5~10mm ロームブロック少し、2mm 以下ローム粒少し含む
5. 黄褐色土 締り有、粘性有、3 層類似色調明るい、ソフトロームベースに 3cm 以下ハードロームブロック多く含む
6. 黄褐色土 締り強、粘性強、色調暗めハードロームブロック主体、ソフトローム・暗褐色土ベースに蜜に堆積、崩落土

落とし穴 2

- I. 黒褐色土 締り強、粘性有、植物根攪乱
  - II. 暗褐色土 締り強、粘性有、1・2 層主体、植物根攪乱
1. 暗褐色土 締り強、粘性有、粉状ローム粒やや多く、白色粒少量含む
  2. 暗褐色土 締り強、粘性有、ローム多く含む黄色味、2 cm 以下ロームブロックや黒褐色土ブロック混ざり斑状呈す、2mm 以下ローム粒やや多い

落とし穴 3・5

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、同焼土僅かに含む
2. 黒色土 締り強、粘性有、1~2 cm 暗褐色土・ロームブロック斑状にやや多く含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm 以下ローム粒少し、同焼土粒僅かに含む
4. 暗褐色土 締り強、粘性有、2 cm 以下ロームブロック・黒色土ブロック蜜に堆積、斑状呈する
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、色調黄灰色味、1~1.5 cm ロームブロック・粒多く含む
6. 黒色土 締り強、粘性は上層に比べやや弱い、2mm 以下ローム粒やや多く含む

落とし穴 4

1. 黒褐色土 締り強、粘性有、0.5mm 以下ローム粒・焼土粒僅かに含む
2. 黒褐色土 粘性有、1 層より締り強く明るい、1mm 以下ローム粒 2mm 以下焼土粒僅かに含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状ローム土やや多く、2mm 以下ローム粒・焼土少し含む
4. 黒褐色土 締り強、粘性有、斑状に黒色土や 3 cm 以下ロームブロックやや多く 2mm 以下焼土僅かに含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、斑状に 2 cm 以下ロームブロック多く、1.5 cm 以下黒褐色土ブロック少し含む
6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム多く含む暗褐色土の緻密な堆積、2 cm 以下ロームブロック多く含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、ローム主体に 3 cm 以下黒褐色土ブロック多く含む

落とし穴 6

1. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 1 cm ロームブロック少し、2mm 以下焼土僅かに含む
2. 暗褐色土 締り強、粘性有、シミ状に 2 cm 以下ロームブロックやや多く、2mm 以下焼土僅かに含む
3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2 層より色調暗い、2 cm ロームブロック、3mm 以下ローム粒やや多く含む、2mm 以下の焼土・黒色粒少量だが目立つ
4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム主体でシミ状暗褐色土含む
5. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ロームブロックと暗褐色土が締まり良く堆積、うすら斑状を呈す、1mm 以下黒色粒僅かに含む
6. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5 cm 以下ロームブロック少し、2mm 以下ローム粒多く含む、ローム粒形明瞭、3mm 以下焼土僅かに含む
7. 黒褐色土 締り強、粘性有、1 cm 以下ロームブロックやや多く含む



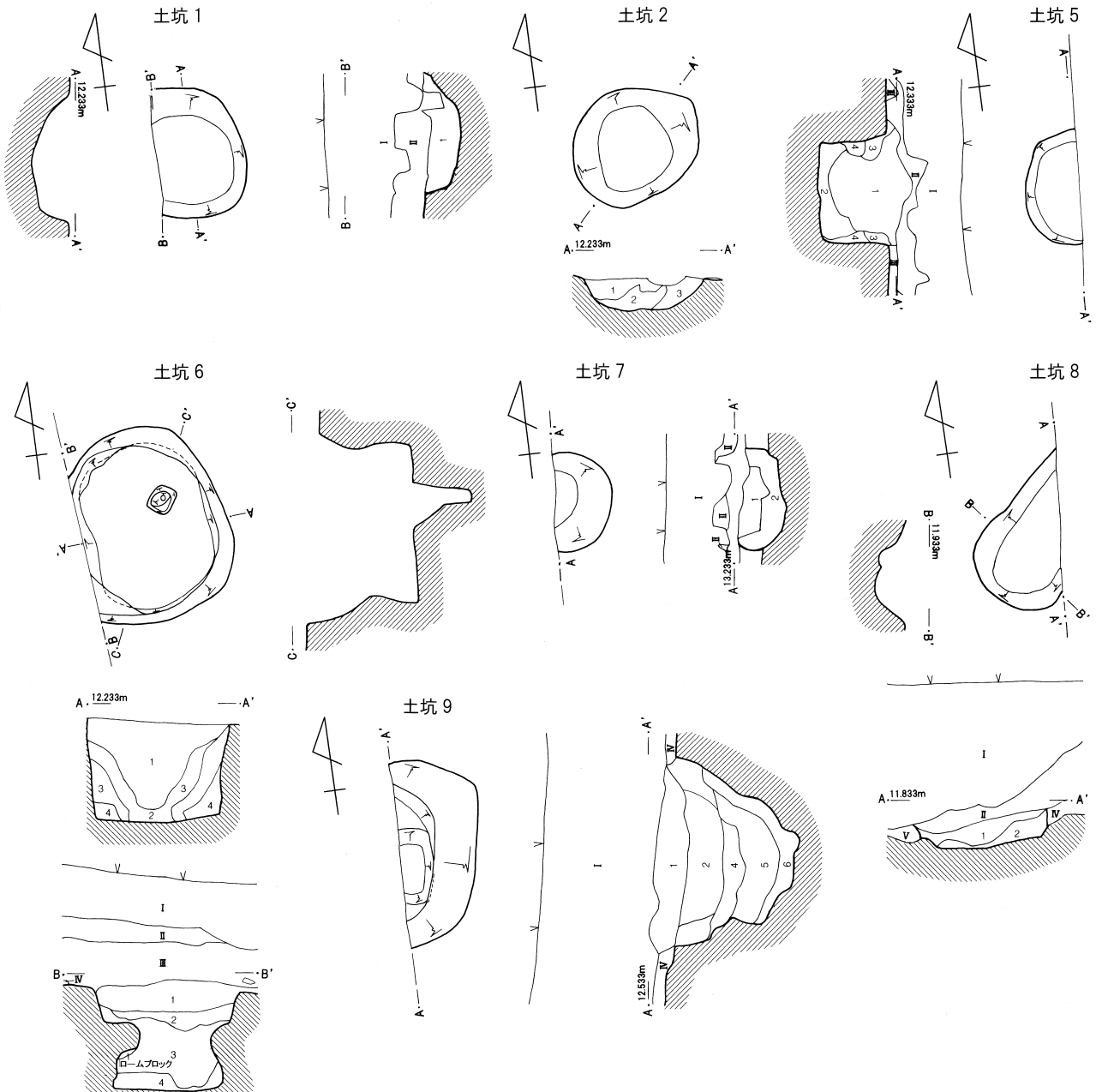
第52図 浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴 6 (1/60)

第36表 浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴一覧表 (単位:cm)

No.	平面形態	確認面径	底面	深さ
落とし穴1	長楕円形	315×76	294×21	115
落とし穴2	楕円形	(120)×100	82×27	120.8
落とし穴3	長楕円形	(236)×89	223×21	101.4
落とし穴4	長楕円形	(281)×(71)	173×32	111.8
落とし穴5	長楕円形	273×109	242×30	97.4
落とし穴6	長楕円形	312×67	276×19	94.1

第37表 浄禅寺跡遺跡第30地点土坑一覧表 (単位:cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	120×(81)	83×(69)	36.4	不明
2	楕円形	125×104	78×74	29.1	中世~
3	三角形	(660)×(410)	618×(370)	123.2	
4	円形	(181)×164	51×51	35.7	中世~
5	不明	106×(49)	90×(40)	66.8	縄文
6	楕円形	181×(135)	150×110	97.5	縄文
7	不明	93×(52)	53×(21)	21.9	縄文
8	不明	(116)×93	(97)×60	35.8	不明
9	不明	171×(75)	43×(22)	118.4	縄文
10	不整形	(80)×84	78×67	28.8	不明
11	不明	141×(87)	85×(62)	82.1	中世~
12	円形	164×134	55×35	21.9	中世~
13	茶毘跡 4 に名称変更				
14	円形	123×115	91×87	39.4	中世~
15	不明	79×(36)	32×(7)	20.8	中世~
16	不整形	(162×135)	(70×52)	26.6	中世~



土坑 1

1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5~10mm ロームブロック多く、ローム粒多量に含む

土坑 2

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5cm以下ロームブロック・粒状ローム多く
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、ソフトロームベースに2cm以下ロームブロック多く・黒褐色土ブロックやや多く含む

土坑 5

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒均一に少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロック少し2mm以下ローム粒やや多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、ロームベースにしみ状暗褐色土含む

土坑 6

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム・焼土粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く5mm炭化物・1mm焼土僅かに含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、5cm以下ロームブロック斑状に多く3mm以下ローム粒やや多く含む
- 4. 黄褐色土 締り強、粘性有、ロームベース、ローム粒の密な堆積、暗褐色土均一に含水した様な土質

土坑 7

- 1. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む、動植物によるロームの混入
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、IV層より黒色味強い1mm以下焼土・ロー粒僅かに多く含む

土坑 8

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、1cmロームブロック僅かに含む
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロックやや多くローム粒少し含む

土坑 9

- 1. 黒褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒僅かに含む、IV層と異なり斑状暗褐色土含まない
- 2. 黒色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒・焼土粒極僅かに含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、1mm以下ローム粒・焼土粒少し、暗褐色土ブロック(20cm以下)斑状少し含む
- 4. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ロームベース、一旦堆積がここで止まっていた様で上部は動植物痕の黒色土やハードロームブロックが混ざり斑状呈する
- 5. 黒褐色土 締り強、粘性有、暗褐色土ブロックと黒褐色土の密な堆積でうすら斑状呈する、2mm大焼土粒少し含む
- 6. 暗黄褐色土 締り強、粘性有、ローム多く含む、黒褐色土ブロック含む、うすら斑状呈する

土坑 10

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、硬化(酸化)する、黒色味で2mm以下ローム粒やや多く含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く、5mm以下黒色土粒少し含む
- 3. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含み色調明るい

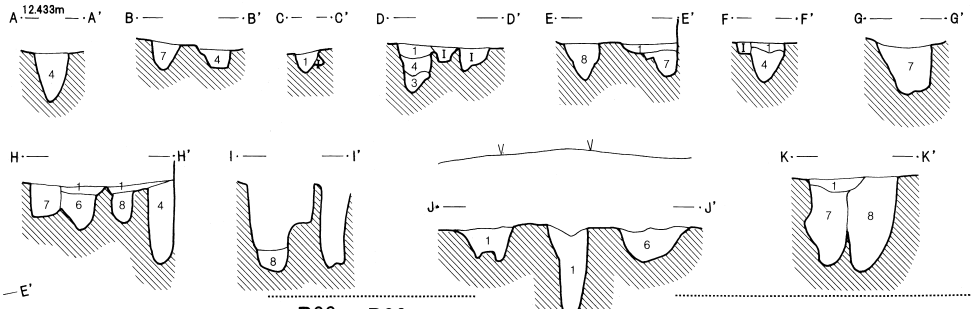
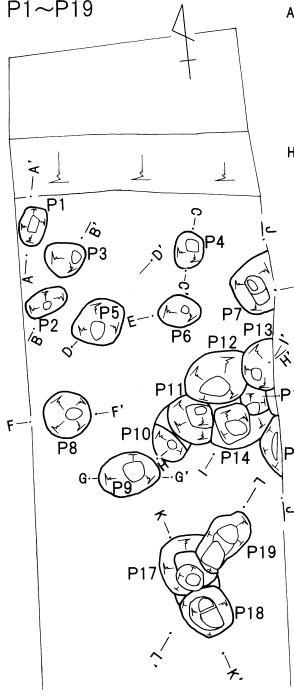
土坑 11

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、暗褐色土ベースにシミ状黒色土多く、5~30mm ロームブロックやや多く、ローム粒少し含む
- 2. 暗褐色土 締り有、粘性有、最大6cm平均5~20mm ロームブロック含む

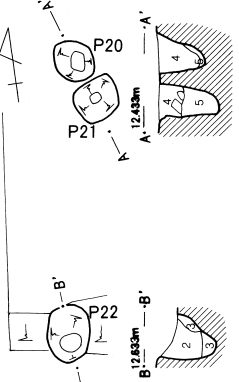


第53図 浄禅寺跡遺跡第30地点土坑 (1/60)

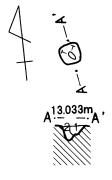
P1~P19



P20~P22



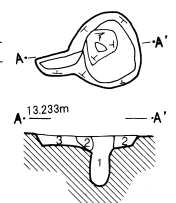
P23



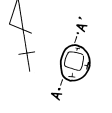
P24



P25



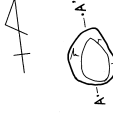
P26



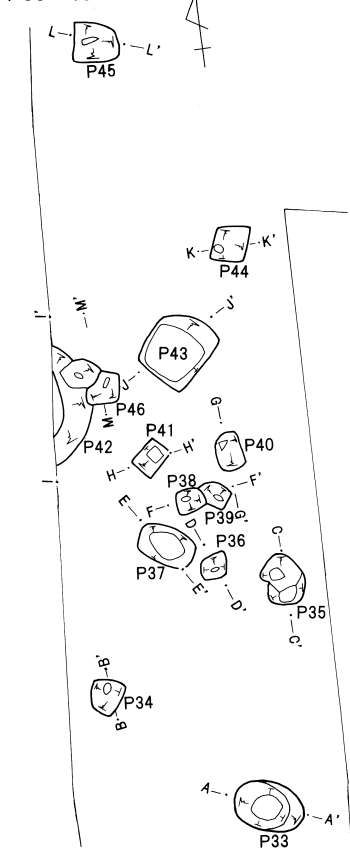
P27



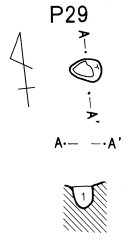
P28



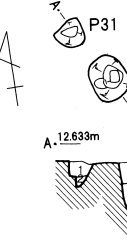
P33~46



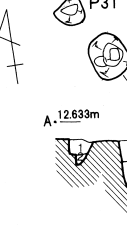
P29



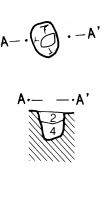
P30



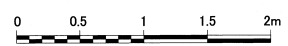
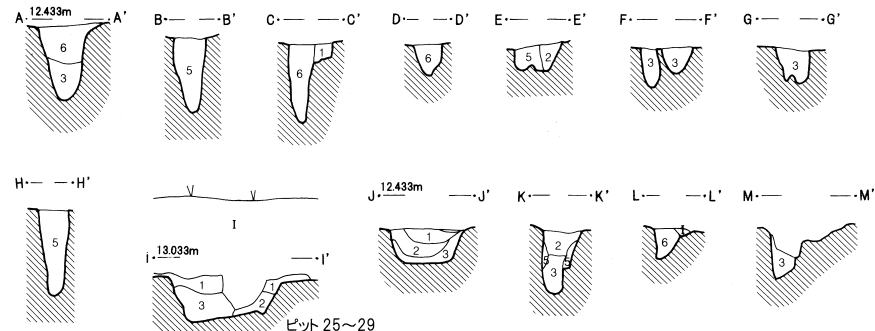
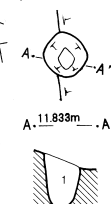
P31



P32



P47



ピット 25~29

- 1. 黒褐色土 締りやや弱、粘性有、3mm以下ローム粒やや多く含む
- 2. 黒褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下暗褐色土ブロック斑状にやや多く含む
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、黒褐色土ベースに暗褐色土斑状にやや多く、暗褐色土粒少し含む
- 1' 黒褐色土 締り有、粘性有、4cm以下ソフトロームブロック多く含む
- 1'' 暗褐色土 締り有、粘性やや弱、1cm大ロームブロック2mm以下ローム粒やや多く含む

ピット 30~41・44~46

- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、色調やや灰色味
- 3. 黒褐色土 締り有、粘性有、3mm以下ローム粒1cm以下ロームブロック少し含む
- 4. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、ソフトロームブロック主体
- 5. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、1cm以下ロームブロック主体
- 6. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む

ピット 42

- 1. 暗褐色土 締り強、粘性有、1~2cmロームブロック少し・粒やや多く含む
- 2. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロック主体
- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2cm以下ロームブロックやや多く・同粒多く含む

ピット 43

- 3. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒少し含む
- 4. 暗褐色土 締り強、粘性有、2mm以下ローム粒やや多く含む、締り良く、色調黒色味

ピット 44

- 5. 暗褐色土 締り強、粘性有、1.5cm以下ロームブロックやや多く含む 2mm以下ローム粒・焼土少し含む、色調黒色味
- ピット 47
- 1. 黒褐色土 締り有、粘性有、4cm以下ソフトロームブロック下部に多く含む(Ⅱ層旧耕作土に似る)

ピット 1~22

- 1. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒と1.5cm以下ロームブロック少し含む、色調灰色味
- 2. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒少し含む
- 3. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、ロームブロック多く含む
- 4. 黒褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒やや多く、1.5cm以下ロームブロック少し含む
- 5. 黒褐色土ベース 締り有、粘性有、ローム粒多く含む
- 6. 暗褐色土 締り有、粘性有、5mm以下ローム粒多く含む
- 7. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、1cm以下ロームブロック多く含む、ボンボンし色調黒色味
- 8. 暗褐色土 締りやや弱、粘性やや弱、2cm以下ロームブロック多く含む、ボンボンし7層により明るい

ピット 23・24

- 1. 黒色土 締り有、粘性有、粒状ローム僅かに含む
- 2. 黒色土 締り有、粘性有、1層ベースに5mm以下ローム粒やや多く含む

第54図 浄禅寺跡遺跡第30地点ピット・溝 (1/60)



第38表 浄禅寺跡遺跡第30地点ピット一覧表

(単位cm)

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ
1	方形	31×21	11×7	40.4
2	方形	30×28	10×8	33.3
3	楕円形	34×19	7×6	24.3
4	方形	28×22	10×9	24.0
5	方形	37×35	15×11	38.9
6	楕円形	35×27	6×5	29.5
7	不明	44×(34)	10×5	47.6
8	円形	38×37	14×8	49.7
9	楕円形	49×34	15×15	52.5
10	楕円形	30×20	8×7	29.5
11	不明	39×(36)	9×6	-
12	円形	55×45	24×16	38.5
13	不明	41×(24)	9×8	73.0
14	方形	29×27	19×12	73.4
15	不明	(25×20)	10×(10)	35.7
16	不明	49×(16)	22×4	24.0
17	円形	48×48	12×9	71.9
18	方形	39×37	11×9	78.6
19	方形	55×30	20×16	49.8
20	方形	33×31	15×10	38.2
21	方形	34×32	8×7	43.2
22	方形	45×33	17×15	47.3
23	方形	17×16	8×3	15.5
24	方形	19×17	8×5	30.2
25	不整形	83×59	9×5	52.4
26	方形	27×22	14×14	32.0
27	方形	25×22	16×13	22.0
28	円形	45×33	35×23	17.4
29	三角形	26×18	15×10	23.7
30	方形	35×29	10×8	55.9
31	三角形	23×21	12×8	25.3

No.	平面形態	確認面積	底径	深さ
32	方形	27×20	12×9	30.0
33	楕円形	55×38	25×19	66.3
34	方形	28×25	10×6	67.8
35	不整形	38×31	10×9	66.7
36	方形	20×19	8×3	29.2
37	方形	45×29	27×20	23.7
38	方形	22×19	9×4	37.6
39	不明	(26)×19	9×3	21.1
40	方形	30×21	8×7	38.4
41	方形	25×20	10×10	71.9
42	不明	95×(30)	52×(9)	27.2
43	方形	55×49	40×38	29.6
44	方形	27×27	8×6	52.4
45	方形	35×32	14×5	28.3
46	不明	26×25	9×3	52.0
47	方形	31×31	13×12	47.7
48	円形	31×30	12×10	47.1
49	楕円形	51×35	30×24	54.7
50	円形	28×26	10×5	20.4
51	円形	35×34	9×7	65.2
52	方形	47×46	10×4	26.9
53	円形	34×31	14×13	11.8
54	円形	42×38	18×16	9.3
55	方形	29×25	14×13	16.3
56	不整形	67×40	25×8	40.2
57	不明	70×(17)	50×(11)	25.0
58	楕円形	53×37	13×11	20.3
59	方形	80×78	47×42	65.0
60	不整形	98×64	13×7	51.5
61	円形	30×23	14×5	42.5

## V 浄禅寺跡遺跡第31地点

## (1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より2008年1月29日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡の中央部に位置し、南側に隣接する第27地点では縄文時代の遺構と遺物が出土しているため、申請者と協議の結果、試掘調査を実施した。試掘調査は同年2月19日から行ない、残土置き場の関係から調査区を東西に分け、初めに東側半分を重機による表土除去後、人力による表面精査を行なった。縄文時代の遺構が確認されたため申請者と協議を行ない、本調査に切り替え3月5日まで本調査を実施した。東側調査区に続き西側半分の調査し、縄文時代の住居跡1軒、炉穴1基、土坑1基、ピット26基を検出、縄文土器・石器等の遺物が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行なったうえ埋め戻し、本調査を終了した。

## (2) 遺構と遺物

## ① 3号住居跡

【形状・規模・時期】 調査区南側の第27地点寄り、

2号住居跡の北約17mに位置する。

平面はほぼ円形を呈し、断面は僅かに掘り込みが確認できる程度で、表土層の下がほぼ床面といえる。

規模は4.2m×4.1m、深さは7cmを測る。

住居跡の主軸は埋甕1・2と炉を結ぶ線である。加曾利EⅢ期。

【炉】 住居中央部に位置し平面は楕円形を呈する。覆土層に1mm大焼土粒を少し含むが焼土面はみられない。規模は確認面積110×73cm、底径90×62cm、深さ11.8cmで西側に深さ6cmの小ピットがみられる。

【埋甕1・2】 住居内の西側、ピット1・2の間とピット3・4の間から炉を結ぶ線上に東西に並ぶ。

埋甕1は東側に位置し、底部を下にした正位置の状態出土した。平面形態は楕円形で上端45×18cm、下端20×10cm深さ5.7cmを測る。

埋甕2は西側に位置し、底部を下にした正位置の状態出土した。平面形態は楕円形で上端35×27cm、下端16×13cm深さ10.3cmを測る。

【柱穴】 主柱穴は4本で、第39表浄禅寺跡遺跡第31地点土坑・ピット一覧表中のPN0.2～5である。

## 附編 浄禅寺跡遺跡第30地点調査の放射性炭素年代測定

株式会社古環境研究所

### 1. はじめに

放射性炭素年代測定は、呼吸作用や食物摂取などにより生物体内に取り込まれた放射性炭素 ( $^{14}\text{C}$ ) の濃度が、放射性崩壊により時間とともに減少することを利用した年代測定法である。過去における大気中の  $^{14}\text{C}$  濃度は変動しており、年代値の算出に影響を及ぼしていることから、年輪年代学などの成果を利用した較正曲線により  $^{14}\text{C}$  年代から暦年代に較正する必要がある。

ここでは、浄禅寺跡遺跡第30地点調査で検出された炭焼窯および茶毘跡の年代を明らかにするために、加速器質量分析法および液体シンチレーションカウンタによる  $\beta$ -線計数法を用いて放射性炭素年代測定を行った。

### 2. 試料と方法

測定試料は、第30地点で検出された炭焼窯より出土した炭化物No.8、同茶毘跡1より出土した炭化材No.2、同茶毘跡2より出土した炭化材No.8の3点である。放射性炭素年代測定の手順は以下のとおりである。

表1 測定試料及び処理

試料名	地点	種類	前処理・調整	測定法
No.1	第30地点炭焼窯 No.8	炭化物	酸-アルカリ-酸洗浄	AMS
No.2	第30地点茶毘跡1 No.2	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄	Radiometric
No.3	第30地点茶毘跡2 No.8	炭化材	酸-アルカリ-酸洗浄	Radiometric

※AMS (Accelerator Mass Spectrometry) は加速器質量分析法

※Radiometricは液体シンチレーションカウンタによる  $\beta$ -線計数法

### 3. 結果

年代測定の結果を表2に示す。

表2 測定結果

試料名	測定No. (PED-)	$^{14}\text{C}$ 年代 <sup>1)</sup> (年BP)	$\delta^{13}\text{C}$ <sup>2)</sup> (‰)	補正 $^{14}\text{C}$ 年代 <sup>3)</sup> (年BP)	暦年代(西暦) <sup>4)</sup>
No.1	10473	520 ± 24	-10.1	530 ± 25	1 $\sigma$ : cal AD 1410 ~ 1440 2 $\sigma$ : cal AD 1320 ~ 1350, cal AD 1390 ~ 1440
No.2	242107	630 ± 70	-21.6	680 ± 70	1 $\sigma$ : cal AD 1270 ~ 1320, cal AD 1350 ~ 1390 2 $\sigma$ : cal AD 1220 ~ 1410
No.3	242108	820 ± 70	-26.7	790 ± 60	1 $\sigma$ : cal AD 1210 ~ 1280 2 $\sigma$ : cal AD 1160 ~ 1290

#### (1) $^{14}\text{C}$ 年代測定値

試料の $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比から、単純に現在（AD1950年）から何年前かを計算した値。 $^{14}\text{C}$ の半減期は国際的慣例により Libbyの5568年を使用した（実際の半減期は5730年）。

#### (2) $\delta^{13}\text{C}$ 測定値

試料の測定 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ 比を補正するための炭素安定同位体比（ $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ ）。この値は標準物質（PDB）の同位体比からの千分偏差（‰）で表す。

#### (3) 補正 $^{14}\text{C}$ 年代値

$\delta^{13}\text{C}$ 測定値から試料の炭素の同位体分別を知り、 $^{14}\text{C}/^{12}\text{C}$ の測定値に補正値を加えた上で算出した年代。試料の $\delta^{13}\text{C}$ 値を $-25$ (‰)に標準化することによって得られる年代である。

#### (4) 暦年代 Calendar Age

$^{14}\text{C}$ 年代測定値を実際の年代値（暦年代）に近づけるには、過去の宇宙線強度の変動などによる大気中 $^{14}\text{C}$ 濃度の変動および $^{14}\text{C}$ の半減期の違いを較正する必要がある。暦年較正には、年代既知の樹木年輪の $^{14}\text{C}$ の詳細な測定値およびサンゴのU/Th（ウラン/トリウム）年代と $^{14}\text{C}$ 年代の比較により作成された較正曲線を使用した。最新の較正曲線であるIntCal04ではBC24050年までの換算が可能である（樹木年輪データはBC10450年まで）。

暦年代の交点とは、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値と較正曲線との交点の暦年代値を意味する。 $1\sigma$ （68%確率）と $2\sigma$ （95%確率）は、補正 $^{14}\text{C}$ 年代値の偏差の幅を較正曲線に投影した暦年代の幅を示す。したがって、複数の交点や複数の $1\sigma \cdot 2\sigma$ 値が表記される場合もある。

## 4. 所見

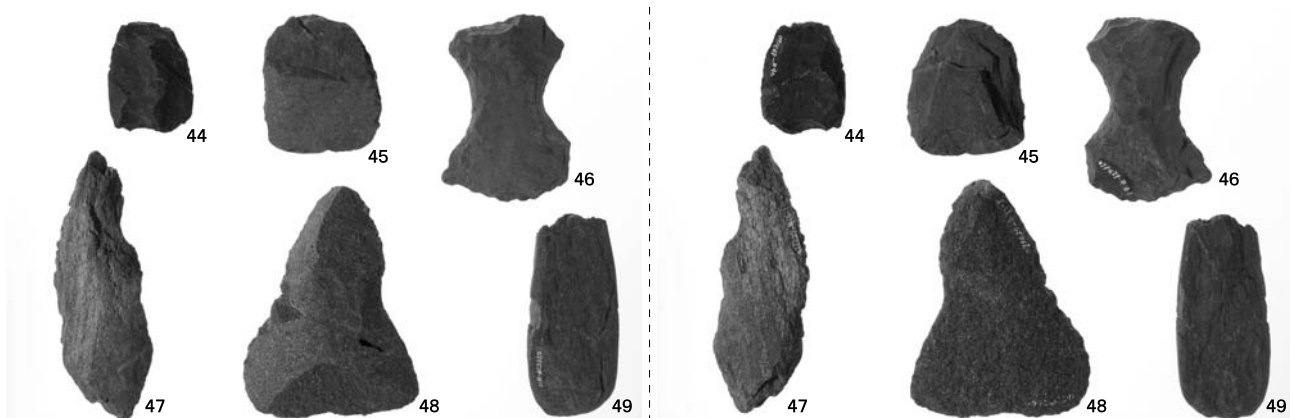
放射性炭素年代測定の結果、第30地点で検出された炭焼窯出土の炭化物では $530 \pm 25$ 年BP（ $1\sigma$ の暦年代でAD1410～1440年）、同茶毘跡1出土の炭化材では $680 \pm 70$ 年BP（同AD1270～1320年、AD1350～1390年）、同茶毘跡2出土の炭化材では $790 \pm 60$ 年BP（同AD1210～1280年）の年代値が得られた。

### 文献

Paula J Reimer et al., (2004) IntCal04 Terrestrial radiocarbon age calibration, 26-0 ka BP. Radiocarbon 46, 1029-1058.

尾畷大真（2005）INTCAL98からIntCal04へ。学術創成研究費 弥生農耕の起源と東アジアNo.3 - 炭素年代測定による高精度編年体系の構築 -, p.14-15.

中村俊夫（1999）放射性炭素法。考古学のための年代測定学入門。古今書院, p.1-36.



浄禅寺跡遺跡第29地点出土石器No.44~49 (左：表面、右：裏面)



浄禅寺跡遺跡第30地点  
試掘調査トレンチ2



浄禅寺跡遺跡第30地点  
試掘調査トレンチ3



浄禅寺跡遺跡第30地点試掘調査トレンチ4



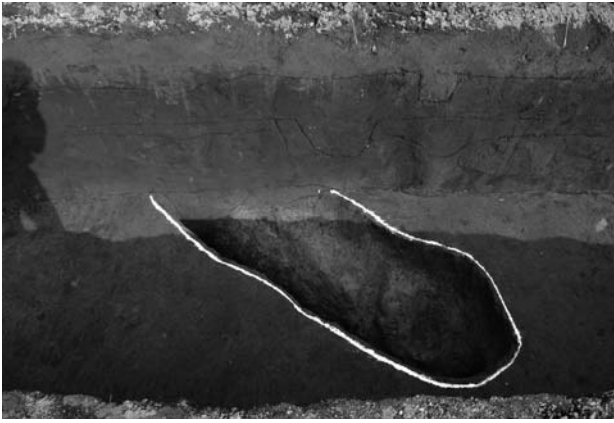
浄禅寺跡遺跡第30地点炉穴1



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴1



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴2



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴3



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴4



浄禅寺跡遺跡第30地点落とし穴5



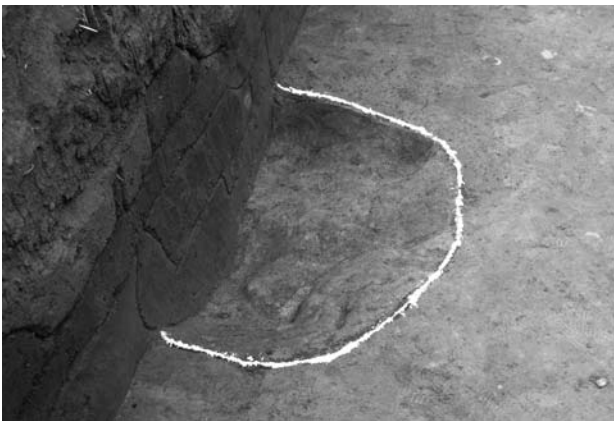
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑1



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑2・4、溝1



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑5



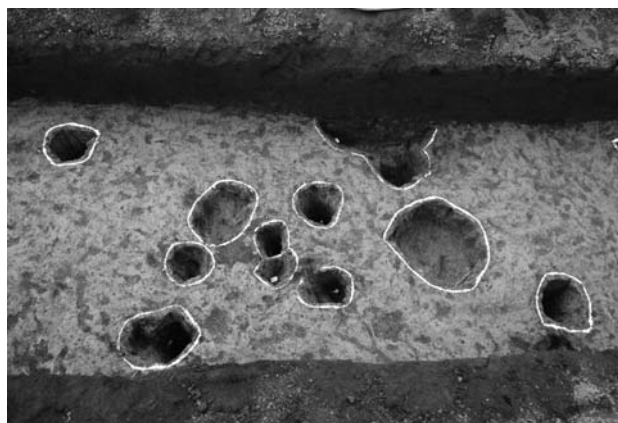
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑7



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑8



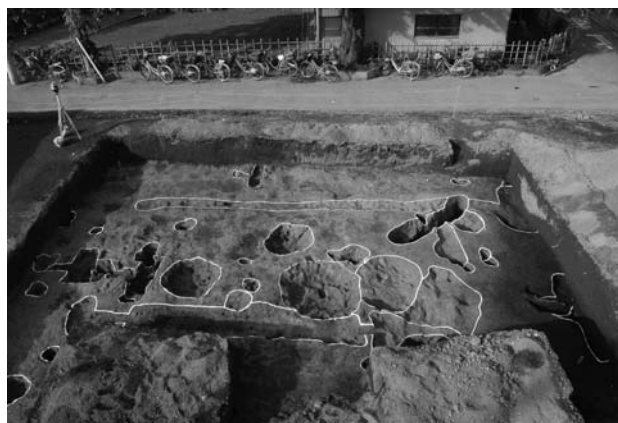
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑9



浄禅寺跡遺跡第30地点トレンチ4、ピット



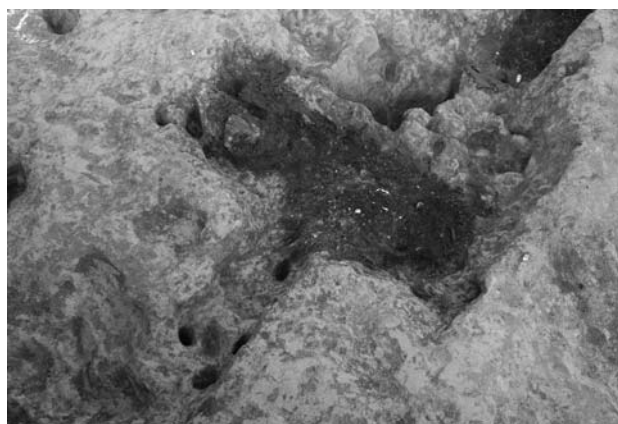
浄禅寺跡遺跡第30地点トレンチ5、ピット



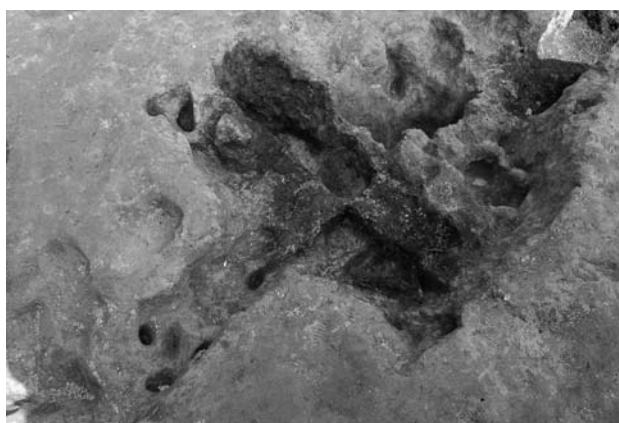
浄禅寺跡遺跡第30地点本調査全景



浄禅寺跡遺跡第30地点本調査全景



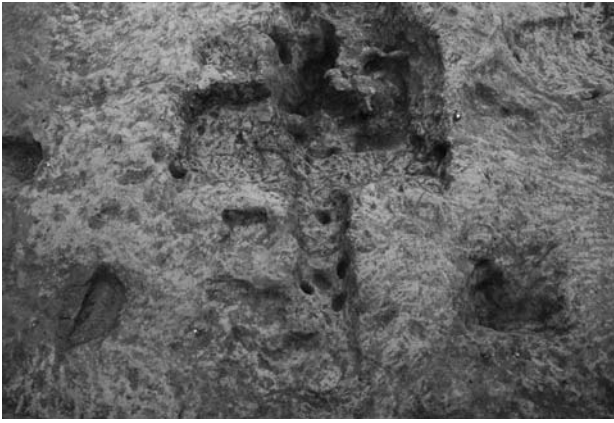
浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



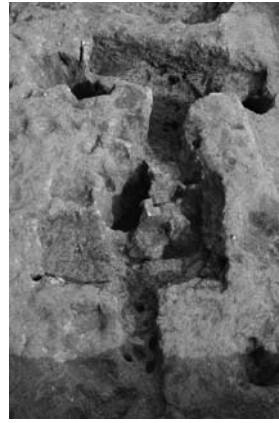
浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡1 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 1



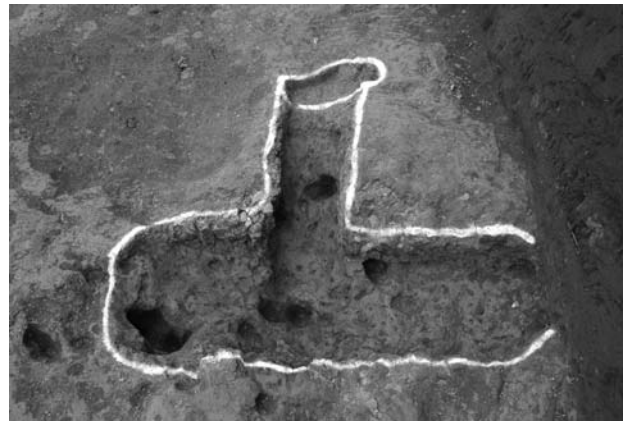
浄禅寺跡遺跡第30地点  
茶毘跡 1・3



浄禅寺跡遺跡第30地点  
茶毘跡 1・3



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 2 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 2



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 3 遺物出土状況



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 3



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 4



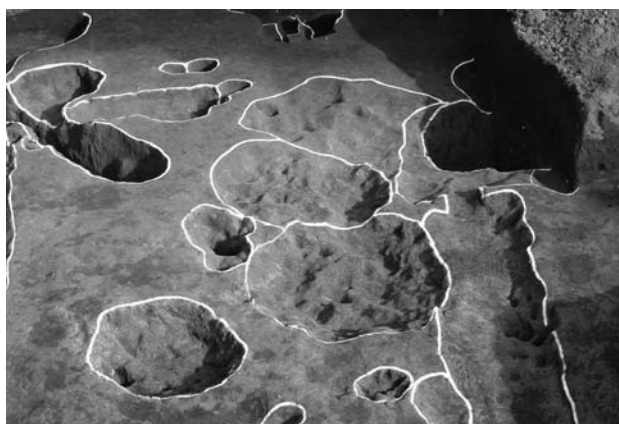
浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 4・5



浄禅寺跡遺跡第30地点茶毘跡 1・3、木炭窯



浄禅寺跡遺跡第30地点木炭窯



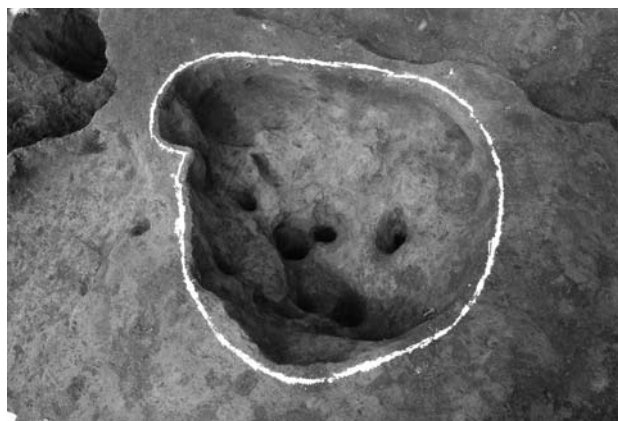
浄禅寺跡遺跡第30地点土坑 4・11・12・15・16



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑 3 土層

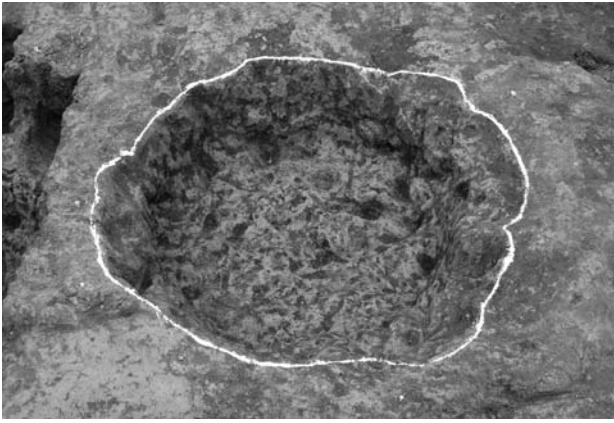


浄禅寺跡遺跡第30地点土坑 3



浄禅寺跡遺跡第30地点土坑10



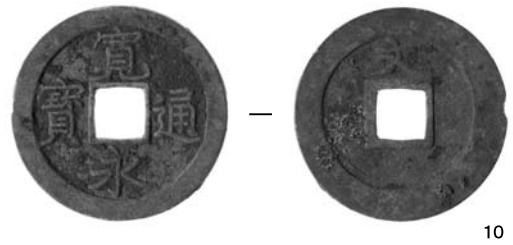
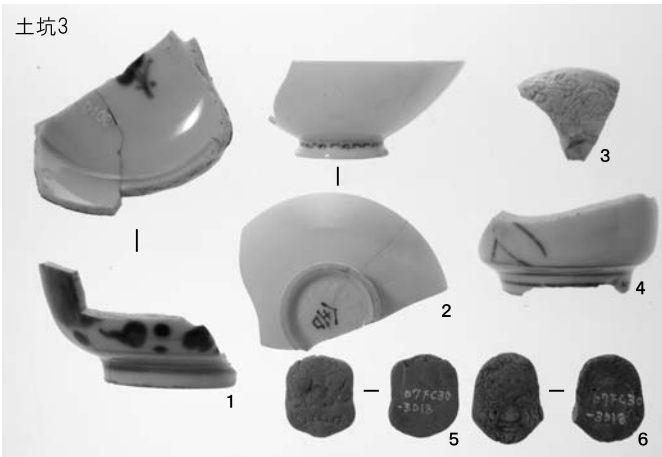


浄禅寺跡遺跡第30地点土坑14

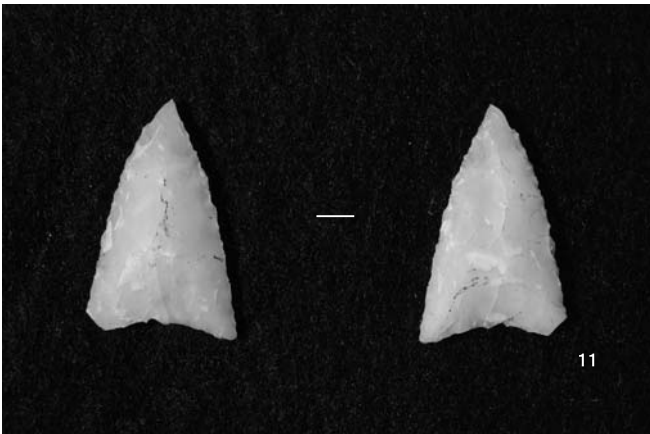


浄禅寺跡遺跡第30地点溝

土坑3

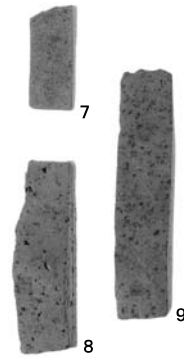


10

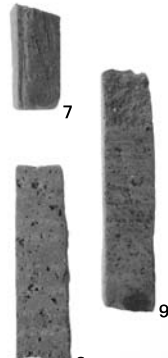


11

No.7~9 (表面)



(裏面)

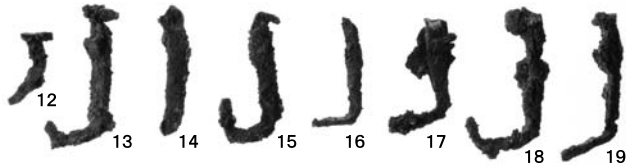


P21



26

茶毘跡1



12

13

14

15

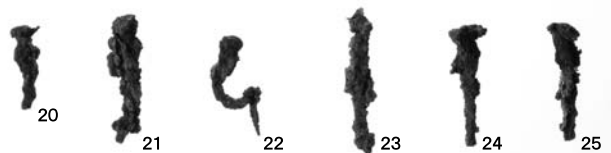
16

17

18

19

茶毘跡4



20

21

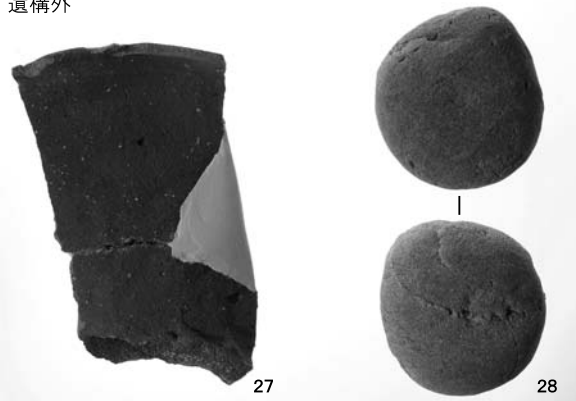
22

23

24

25

遺構外



27

28



浄禅寺跡遺跡第30地点調査区全景（西から）



浄禅寺跡遺跡第30地点調査区全景（南から）